

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	CDM 理事会 QA セッション CDM Executive Board: question and answer session
主催	UNFCCC 事務局
日時	2004 年 12 月 7 日 (火) 13 : 00 ~ 15 : 00
主要討論者	CDM 理事会メンバー約 15 名
傍聴者	約 80 名
目的	CDM 制度や運用における課題や質問を理事会メンバーに問う。
討論の概要	<p>< 理事会の運営体制 > Q (多数): 理事会やパネルの作業の迅速化、コスト削減を望む。CDM の制度が複雑であることへの対応を望む。また、来年以降は更に作業が増えることへの多対処を望む。 A (Kilani 理事): 作業プロセスの改善などの案が出ているが、まだ結論は出ていない。これまでに統合方法論や追加性証明ツールの作成、承認された方法論のリフォーマットバージョンの早期発行、方法論のスクリーニングなどを実施していることを是非認識して欲しい。</p> <p>Q : 理事会メンバーが交代することによる影響は? A : 全てのメンバーが交代せず、継続性を保てるようにしている。</p> <p>< CDM 運用 > Q : DOE 等の地域バランスはどのようになっているか? A (Muyungi 理事): パネル (AP、MP) や各種ワーキンググループのメンバーは地域バランスを考慮して編成している。OE の認定に関しては 26 申請機関中、5 機関 (コロンビア、ブラジル、マレーシア、韓国 × 2) が非附属書 国の機関となっている。</p> <p>Q (コンサルタント): CDM 運用に使用する収益金分担分 (Share of Proceed) の額を決める審議はいつ始まるのか? A (Borsting 理事): EB15 でレビューを行ったが、EB で更に議論したい。</p> <p>< プロジェクト関連 > Q (メキシコ): 運輸関連の CDM の進捗はどうか? A (Becker 理事): 現在までに 1 件方法論が提案され、承認はされなかった。しかし、今後もボトムアップで方法論が提案されるのを待っている。</p> <p>Q (メキシコ): ベースライン設定における国の政策に関する判断表 (E + ・ E - : 排</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

出増減に影響する政策・規則、L+・L-：排出増減に影響する当該セクターに関する強制的な規制)は非常に有効である。このようなツールをもっと使って欲しい。
A (Bonilla 理事): L±についてはEB18で審議する予定である。

Q (アルゼンチン): たとえばインドでは廃棄物処理の規制の厳しさから、承認された方法論は複雑である。いっぽう、アルゼンチンでは規制は厳しくないため、簡単な方法論を適用できると考える。このような場合、方法論の一部を使うことはできるのか？

A (Becker 理事): 簡素化に関する結論は出ていない。

Q: バイオマス系で承認された方法論のAM0004やAM00015を統合することはできるのか？

A (Becker 理事): 再生可能エネルギーの中でもバイオマスは化石燃料の代替エネルギーとする場合やメタン回収する場合、リーケージの考慮など複雑であり、統合に時間がかかる。

Q (UNDP モロッコ CDM 実施者): Consolidated methodology は、他のセクターでも作成する予定があるか？

A: 他のセクターにニーズがそれほど見られないために、他のセクターは今のところ考えていない。これからいくつか同じ共通したものが出てきたら、考えるべきである。

Q (UNDP モロッコ CDM 実施者): Additionality tool の利用は、困難が伴う。小規模 CDM では additionality が簡素化できるのか？

A: 複雑化しているというが、additionality tool はプロジェクト提案者を助けるものであると考えている。多くのメソッドロジーはこれまで additionality に関して拒否されてきたが、これからそのようなことがないと考える。90%のメソッドロジーはこの tool を利用していることも明らかである。小規模 CDM には別のアプローチがあって、この additionality tool を利用する必要はない。簡素化したものを利用するように。

Q (UNDP モロッコ CDM 実施者): 小規模 WG の動きや議論、特に modalities and Procedures の簡素化はどうか？

A: EB は小規模 CDM に関する WG を設立して、2005 年 1 月末に議論を開始するようになっている。

Q (ラテンアメリカ): AIJ の feasibility study で行っていたプロジェクトに関して、2000 年 1 月以降のものが CDM となりえるだろうか？

A: マラケシュアコードにおいては、2001 年からのものは登録ができる。もし基準があえば CDM になりえる。

Q (NNS): CDM プロジェクトの地域分配はどうか？

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

A : ブラジルでの登録がひとつ。レビューにかかっているものを入れると、ホンジュラスが2つ、韓国1つ、インドが1つ。アフリカでの実施予定は現在のところない。

< 吸収源 >

Q (ボリビア): COP 9 で吸収源が認められたがまだプロジェクトの方法論がほとんど出ていないのはなぜか？

A (Sanhueza 理事): 現在までに2件の方法論が申請されている。どちらもよく準備されたものである。理事会は更なる申請を希望している。

< プロジェクトの登録 >

Q (コンサルタント): HFC23 の登録が拒否された (レビューとなった) のは政治的な決断があったのか？

A (Borsting 理事): 拒否ではなくスコープについてのレビューである。

Q (世界銀行): ホンジュラスの小規模水力 CDM の登録へのレビュー要請が提出されたのはなぜか？持続可能な開発に貢献する良いプロジェクトである。どのようにして小規模 CDM を推進していくのか？

A (Kilani 理事): 次回の EB18 で審議する問題であり、現在は返答できる段階にない。

Q (コンサルタント): DNA から発行される書面による承認 (Written Approval) には「関係者双方の自発的な参加 (Voluntary participation from each party involved)」の記載が必要とされている。この「each party involved」とは誰を指すのか？非附属書 国と附属書 国の DNA を指すのか？

A (Gera 理事) マラケシュアコードで明確に規定されておらず、明確にするようにしたい。Written approval は「無条件」であることと固有のプロジェクトについての承認であることに注意する必要がある。

Q (ラテンアメリカ): レビューされることが決定した2件の HFC23 ガス破壊プロジェクトに関して、これからどのように対応するのか？

A : COP からガイダンスがでるまで、それらのプロジェクトの登録を待つわけではない。ガイダンスがレビューに関係しているわけではない。

< クレジット関連 >

Q (英国デベロッパー): CER が発行された場合、CER はどこに配分されるのか？1つのプロジェクト参加者の口座か、契約にある全ての事業者の口座に配分されるのか？

A (Gera 理事): 国家登録簿でどのようにオーソライズするかによる。複数の保有口座に配分することもできると思うが、コストの理由で難しいのではないか。

Q : (エリトリア DNA): CDM による温室効果ガスの削減とビジネスとの両立を望

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>む。</p> <p>A (Kilani 理事): 事業者の参加は CDM に欠かせず、インセンティブを与えることは重要である。しかし温室効果ガス削減等の本来の目的を見失い、発行された CER の信頼性を損なうようなことがあってはならない。</p> <p><キャパシティビルディング></p> <p>C (イスラエル): 非附属書 国へのキャパシティビルディングについて。追加性や持続可能な開発の基準作りなどについてのキャパシティビルディングを望む。</p> <p>Q (インド): 非附属書 国が CDM を行うには、大きく以下のバリアがあり、DNA が取り組めるような対応を望む。1) 複雑な CDM プロセスを理解するためのキャパシティビルディング、2) 諸手続きや PDD 作成等にコストがかかることへの対応。</p> <p>A (Borsting 理事): キャパシティビルディングの重要性は認識している。COP 会期中にはサイドイベントで各国 DNA の発表を聞くことができるので参考にして欲しい。</p>
資料	なし

報告：財団法人地球環境センター・社団法人海外環境協力センター / 文責：川村美穂子